

旭川

2023年度 旭川市市勢要覧



特徴がたくさんあるんじゃない。
得意なひとがたくさんいるんだ。

- 家具のまち。
- 木工のまち。
- ラーメンのまち。
- デザインのまち。
- 酒のまち。米のまち。
- スイーツのまち。
- 実は、寿司が旨いまち。
- おいしいものにはことかかない。
- ものづくりも、盛んなまちです。

- 寄附金の使い道**
- 旭山動物園における動物たちの購入や設備の充実
 - 買物公園のにぎわいづくり
 - 子どもたちの学びの支援
 - 高齢者生きがいづくりの支援
 - 動物愛護センターへの支援
 - 雪対策の強化
 - スポーツ振興の推進
 - 国際交流活動の推進
 - ものづくり技能者の育成など



旭川家具



日本酒



ラーメン



お米

主な返礼品（一部）

寄附手続き方法

寄附受付ポータルサイト



郵便振り込み
旭川市ホームページから寄附申込書をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、郵送してください。



問合せ先

旭川市税務部税制課
北海道旭川市6条通9丁目
旭川市総合庁舎2階
電話(0166)2515604
FAX(0166)2712146
※受付時間 8時45分～17時15分
※土日祝及び12月30日～1月4日までを除く
Eメール zeisei@city.asahikawa.lg.jp

ふるさと納税(ふるさと納税)の最新情報は、SNSでご覧いただけます。



ふるさと納税についての詳細は、ホームページでもご覧いただけます。

旭川市ホームページ
<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp>

<https://www.facebook.com/asahikawacity>

https://www.instagram.com/asahikawacity_official/

2023年度 旭川市市勢要覧
発行 旭川市
編集 旭川市総合政策部広報広聴課
〒070-8525 旭川市6条通9丁目46番地
0166-26-1111(代表)

https://twitter.com/asahikawa_jp

<https://www.youtube.com/user/kohokocho027/videos>

[@asahikawa](https://line.me/tv/@asahikawa)



- 03 旭川市市制施行100年記念事業
- 05 旭川家具の誕生からデザイン都市旭川へ
- 07 自然と都市機能が調和するまち旭川
- 09 大雪山の恵みで育ったおいしい「食」の宝庫
- 11 スポーツのまち旭川
- 13 旭山動物園 ～伝えるのは、命～
- 15 北の拠点にきらめく歴史・文化・芸術
- 17 北海道のまん中・旭川空港
- 19 イベントカレンダー
- 21 第8次旭川市総合計画
- 25 市議会
- 26 世界が認めた創造都市のスグレモノ

ごあいさつ

旭川市長
今津 寛介



旭川市は旭岳をはじめとする大雪山・十勝岳連峰の雄大な山々を背景に、石狩川など多くの河川が街中を流れ、四季を通じて彩りが豊かな風光明媚なまちです。そうした多彩な自然と、充実した医療や福祉、教育、文化などの都市機能が調和する北北海道の拠点都市であり、令和4年には市制施行100年の節目を迎えました。

作付・生産量ともに道内一の米の産地であるほか、北海道のほぼ中央に位置し、冬でも高い就航率を誇る旭川空港を有することから交通・物流の要衝として商業や食品加工、産業機械などの製造業も集積しています。また、長年にわたる地域のデザイン性向上への取組が評価され、令和元年にユネスコ創造都市ネットワークにデザイン分野で加盟認定を受けました。

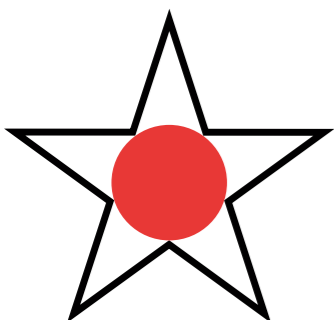
令和4年1月、本市は周辺8町と「旭川大雪圏域連携中枢都市圏」を形成し、自然災害の少なさ、主要都市を結ぶ良好な交通アクセスなどの優れた特性を活かし、圏域全体で移住やワーケーション、企業誘致を積極的に進めながら、地域経済の活性化を図っています。

北北海道唯一の第二種感染症指定医療機関である市立旭川病院をはじめとする質の高い医療体制や、令和5年4月に開学した旭川市立大学を含む3大学1短大1高専の充実した高等教育機関を有するほか、安心して子育てができるよう中心市街地に新たに整備した子育て世代包括支援センターwaka・baなど、誰もが暮らしやすいまちづくりを目指して取組を進めています。また地元の農畜産物や道内各地から集まる新鮮な山の幸、海の幸などを使った美味しい食をはじめ、命の尊さを伝え続ける旭山動物園、良質なパウダースノーを楽しめるスキー場などの観光資源に加え、本市を拠点とするプロバレーボールチーム・ヴォレアス北海道やeスポーツ競技場を備えるICTパークといった新しい魅力を広く国内外に発信しています。

この市勢要覧は、旭川市の様々な魅力や、現在進めている主要施策などを紹介しています。本市を御理解いただく上での一助になれば幸いです。

旭川市徽章

本市の徽章は、明治44年6月29日に制定されたもので北海道は北斗星をもって表象されているところから、北斗星の外形をもって北海道を表わし、これに赤色の日章を中心に配して、北海道の中心たる本市を表示したものです。



市民憲章 (昭和35年9月20日制定)

わたくしたちは、旭川市の市民であることに誇りと責任を感じ、この憲章を掲げて、よりよい旭川をつくることに努めましょう。

- 1. 元気で働き、楽しい家庭をつくりましょう。
- 1. 親切をつくし、あたたかい社会をつくりましょう。
- 1. きまりを守り、明るいまちをつくりましょう。
- 1. 自然を愛し、きれいな都市をつくりましょう。
- 1. 文化を育て、豊かな郷土をつくりましょう。



市民の木 | ナナカマド



市民の花 | ツツジ



市民の鳥 | キレンジャク



市民の虫 | カンタン





旭川市市制施行100年記念式典

令和4年8月1日、旭川市民文化会館において、これまでのまちづくりに貢献された功労者(1,045名・団体)への表彰、次代を担う子どもたちによる未来へのメッセージなど、性別や年齢、障がいのあるなしにかかわらず、誰もが活躍できる新しい旭川を実現していく第一歩として、記念式典を開催しました。



旭川100フェス in スタルヒンスタジアム

令和4年10月16日に、日本野球界のレジェンドであるヴィクトル・スタルヒンの名を冠した歴史的球場で初めて、野外音楽フェスティバルを開催しました。アーティストによるパフォーマンスのほか、会場周りの様々な体験・飲食ブースを皆様に楽しんでいただきました。



旭川市市制施行100年記念事業

大正11年8月1日に市制が施行され、旭川市が誕生しました。市制施行から100年の節目にあたる令和4年において、先人たちが歩んだ開拓と発展の歴史を学ぶとともに、その思いを受け継ぎ、夢と希望を持てる新時代旭川を実現するため、記念式典、旭川100フェスなど、市民がワクワクする事業を実施し、まちの賑わいを創出しました。

第90回 北海道音楽大行進記念・旭川ミュージックウィーク

例年1日だけの開催だった音楽大行進を、「旭川ミュージックウィーク」として、9日間のロングランで開催しました。音楽のまち・旭川を代表する吹奏楽、マーチングバンドのほか、クラシックからジャズ、ロックまで多彩なジャンルを皆さんに楽しんでいただきました。



安全地帯から楽曲の提供

メンバーの出身地である旭川市の市制施行100年を記念し、楽曲「あなたがどこかで」を提供していただき記念式典で発表しました。松井五郎さんの作詞、玉置浩二さんの作曲による作品です。

物理的には会えなくても、人はけっして一人じゃない。心の距離だけはいつでも変わらずにいたい。そして誰かにきつと見守られている。そんな思いが込められた、心あたたまる曲です。



第64回旭川冬まつり

北海道の冬の一大イベント「旭川冬まつり」が3年ぶりにリアル開催。会場には、ギネスにも認定されたことがある世界最大級の大雪像をはじめ、市民が有志で作った雪像や氷彫刻作品などが並びました。特設ステージでは大雪像を利用したプロジェクションマッピングが行われ、花火も打ち上がりました。



unesco

Member of
the Creative Cities Network



ユネスコ創造都市 ネットワーク [UCCN]

2019年のデザイン都市加盟認定後、国内外の創造都市とのネットワークづくりのため、積極的に会議やイベントに参加し交流を深めています。

旭川デザインウィーク [ADW]

2015年から家具・木工業界を中心に開かれてきた旭川デザインウィークは、2021年に大きくリニューアル。多種多様な分野の組織・団体との協働で、国内外のクリエイターや異業種間の交流・ビジネスの場としてはもちろん、多彩なプログラムを通し、多くの市民がデザインに触れ、学び、楽しめるイベントへと活動の輪を広げています。



旭川家具の誕生からデザイン都市旭川へ

日本における家具の五大産地の一角を占め、世界からも注目されることが多くなった「旭川家具」。そのブランド確立は100年を超える歴史の中で培われた確かな技術力と最先端のデザインの追求によるものです。

明治時代中期、第七師団の設置により多くの建築・建具職人が移住してきたことで始まった旭川家具の歴史。農業、商業に次ぐ新たな産業の柱として地域を挙げた取組が進められます。

展覧会への出展やイベントの開催を通じて販路拡大を図るとともに、めまぐるしく変化する生活様式にしっかりと対応し時代が必要とする家具のデザインを向上させることで、旭川家具は日本が誇るブランドへと成長しました。

旭川家具のデザイン性を飛躍的に向上させたきっかけとなるイベントが、1990年から3年ごとに開催されている国際家具デザインフェア旭川(IFDA)です。IFDAのメインコンテンツである国際家具デザインコンペティション旭川では、画像による予備審査を通過したデザインの中から十数点を選び、デザイナーと協力しながら試作品開発を行います。すぐれたデザインを短期間で忠実に実物化する高度なものづくりを地元で行うことで、旭川家具が洗練されてきました。

その他にも、全国のバイヤー・建築・インテリア関係者が関心を寄せる「旭川デザインセンター」でインテリアデザインと暮らしの提案を行い、「旭川デザインウィーク」では「デザイン」の楽しさ、感動を多くの市民、子供たちに伝えています。

これらの活動を通じて、世界各国の豊かな感性を肌で感じ、デザインの文化を築き上げてきました。

こうした取組が実を結び、2019年10月、国際連合教育科学文化機関(ユネスコ)が実施する「ユネスコ創造都市ネットワーク」のデザイン分野で加盟認定を受け、国際的に旭川のデザインの文化が認められました。

今後も、官民一体となって人材育成や産業振興に取り組み、デザインので地域を持つ自然や豊富な地域資源の価値を高め、魅力的で持続可能な地域社会の実現を目指していきます。



IFDA2021の様子



自然広がる マウンテンシティリゾート

北海道の屋根といわれる大雪山国立公園に隣接し、その大自然の恵みを大いに受けたこの地域では、年間を通して大自然に溶け込みながら、四季に応じた様々なアクティビティーを体験することができます。特に冬は上質なパウダースノーが降り注ぎ、世界で活躍するプロのスキーヤーからも高く評価されています。こうした強みを生かして、国内外から多くの人々が訪れるマウンテンシティリゾートの構築を目指して様々な取組を進めています。



自然と都市機能が調和するまち旭川

旭川駅の南側には、雄大な大雪山系の山々や近くを流れる忠別川を眺め、北国の自然の美しさに触れることができる癒やしの空間「あさひかわ北彩都ガーデン」が広がります。

また、駅の北側には、平和通買物公園をはじめ、多くの商業施設や文化施設、行政機関、医療機関などが集積し、豊かな自然と都市機能が調和した中心市街地が形成されています。



あさひかわ街あかりイルミネーション





大雪山の恵みで育った おいしい「食」の宝庫

大雪山系からの伏流水と肥沃な大地、盆地特有の昼夜の寒暖差が大きい旭川では、高品質な農産物が数多く生産されています。産地ならではの新鮮な食材を生かしたおいしい「食」も、旭川の大きな魅力の一つです。

▲米

北海道産米は、長年の品種改良の末、かつてのイメージを一新するほどの人気となりました。その中でも旭川の米は、全道一の収穫量を誇り、味と品質でも高い評価を得ています。今では首都圏や関西などの大消費地はもちろん、海外にも出荷されています。



▲そば

旭川は全国有数のそばの産地であり、中でも昼夜の寒暖差の大きい江丹別地区で生産される「江丹別そば」は甘みと香りが強く、2017年に全国優良生産表彰の最高賞である農林水産大臣賞を受賞するなど、首都圏をはじめ全国で高い評価を得ています。



▲地酒

かつて「北海の灘」と呼ばれた酒どころ旭川。大雪山系からの伏流水が生み出す風味豊かな味わいが特徴です。現在も旭川を代表する3つの蔵元「男山」「高砂酒造」「合同酒精」と「大雪地ビール」が個性ある酒造りを行っています。また、旭川の酒米を使用した日本酒製造も始まっています。



▲旭川ラーメン

全国に名を知られたご当地グルメの定番。豚骨と魚介を合わせたダブルスープと低加水縮れ麺が特徴で、150を超える専門店が独自の味を追求し、こだわりのラーメンを提供しています。

▲新子焼き

戦後の旭川で誕生した新子焼きは、若鶏の半身を素焼きにした豪快な焼き鳥で、表面はパリパリ、中身はふっくらジューシーにうまみを凝縮。庶民のごちそうとして長く旭川市民に愛され続けるソウルフードです。



▲北の恵み 食べマルシェ

毎年9月に開催される北海道を代表する食の一大イベント。市内中心部に道北地域の味覚を一堂に集めた巨大市場を展開。市内外の来場者が旬のグルメを食べ尽くします。





旭川市リアルター夢りんご体育館でのホームゲーム



eスポーツスタジアム「コクゲキ」での大会の様子

スポーツのまち旭川

旭川市では、これまで多くのオリンピック・パラリンピック出場選手やメダリストを輩出しているほか、充実した施設やサポート体制を生かし国際大会の代表合宿なども行われてきました。また、旭川を本拠地とするプロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」が活躍するなど、「スポーツのまち」として評価が高まっています。

これからも、知名度向上や交流人口の増加を図るため、スポーツ大会や合宿の誘致を積極的に進め、地域の活性化を推進していきます。



e-sports

2021年2月にオープンしたICTパーク内にある北海道最大級のeスポーツスタジアム「コクゲキ」では様々な大会を行い、日本一・世界一を目指す選手たちの活動をサポートします。

また高性能PCを10台設置したトレーニングジムもあり、一般の方がプロプレイヤーと同等の設備や環境で練習を行えるなど、新たな分野のスポーツ活動を推進しています。

ICTパーク

本格的なeスポーツ大会のほか、高度な映像・音響・照明設備などによる、新たな演出効果のステージイベントなどを開催できる劇場型施設「コクゲキ」、プログラミング教室や研修会を開催できるラボを併設したICT人材の育成を目指す拠点施設。





ASAHIYAMA ZOO

旭山動物園 ～伝えるのは、命～

動物の持つ能力や行動などをありのままの姿で見ることができる「行動展示」は世界から注目が集まり、観光客が絶えず訪れています。飼育している世界各地の動物が、その動物らしく一生を送ることができるように施設や飼育方法を追求し「命の輝き」を来園者の皆さんに伝えています。





先人の文化と開拓の歴史を知る



川村カ子トアイヌ記念館

1916年に開設した道内屈指の歴史を持つ私設博物館。アイヌ文化の伝承を目的に、生活用具のほか、歴史を伝える様々な資料を展示しています。



北鎮記念館

屯田兵や旧陸軍第七師団の歴史、陸上自衛隊第2師団の活動等の資料展示を通じ、北海道の開拓と防衛の歴史を伝えます。

旭川ゆかりの文学に触れる



井上靖記念館

日本を代表する作家・井上靖生誕の地である旭川。東京の邸宅から移設した書齋・応接間のほか、氏が旭川への思いを綴ったノートなど83年の生涯を紹介する貴重な資料を展示しています。



三浦綾子記念文学館

「氷点」など多くの名作を著し、人はいかに生きるかを問うた作家・三浦綾子を記念した民営文学館。三浦綾子の心豊かな表現を後の世に広く伝えるため開設されました。

北の拠点にきらめく歴史・文化・芸術

旭川では、豊かな自然とともに暮らしてきた先住民族アイヌの人々のほか、開拓のために移り住んだ人々など、多くの先人がたゆまぬ努力を積み重ねてきました。

その結果、北海道の拠点都市として今日に至る歴史と北国独自の文化が生まれ、現在も大切に守り、受け継がれています。

旭川市内の歴史・文化施設では、こうした歴史を知り、また、旭川ゆかりの作家により生み出された小説や彫刻など、文化・芸術の世界に触れることができます。



旭川市博物館

アイヌ文化や北海道開拓に関わる貴重な各種資料を通じ、旭川や上川地方の歴史や自然などを総合的に学べる施設です。

彫刻のまち旭川



中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館

日本の近代彫刻史に優れた業績を残した旭川ゆかりの彫刻家・中原悌二郎を記念した彫刻専門の美術館として、1994年に開設されました。悌二郎の作品や中原悌二郎賞受賞作品の常設展示のほか、彫刻及び彫刻家に関する資料の収集を行っています。



彫刻美術館ステーションギャラリー

より気軽に彫刻を観覧できるよう、旭川駅舎内の東口に開設し、旭川と北海道ゆかりの作品を展示するほか、企画展の開催など旭川の文化や芸術を幅広く発信しています。



北海道のまん中・旭川空港

旭川空港は北海道のほぼ中央に位置し、毎年多くの乗降客が利用する北北海道の空の玄関口。国内有数の積雪地にありながら、山に囲まれ風が少ない恵まれた立地条件に加え、万全の除雪体制により、99%の高い就航率を誇っています。2022年度は、東京・名古屋・大阪の国内3都市と旭川を結び運航しています。

2018年には、外国人観光客の受入体制の強化を図るため国際線ターミナルを開業。2019年には、空港ターミナルを全面リニューアル。旭川ラーメンなどのご当地グルメを堪能できるフードコートやイベントスペースなどを備えた「そらいち」がオープンし、北北海道の様々な魅力を発信する拠点として生まれ変わりました。2020年10月には空港の民間委託が開始となるなど、旭川空港は常に進化してきました。今後も、国内・国際航空路線の維持・拡大に取り組むなど、さらなる利用活性化を図ります。



就航率99%を支える旭川空港除雪隊





event calendar イベントカレンダー

- 旭山動物園夏期開園……4月下旬～11月上旬
- 旭山公園夜桜まつり……4月下旬～5月上旬
- 北海道音楽大行進・旭川ミュージックウィーク……6月上旬
- ASAHIKAWA DESIGN WEEK……6月下旬
- 買物公園まつり大道芸フェスティバル……6月下旬

- 永山屯田まつり……7月下旬
- 旭川夏まつり……7月下旬～8月上旬
- 銀座七夕まつり……8月上旬
- 夜の動物園……8月中旬
- 音と光のファンタジー花火 in KAGURA……8月中旬

- 北の恵み 食べマルシェ……9月中旬
- こたんまつり……9月下旬
- 旭川ハーフマラソン……9月下旬
- 旭山動物園冬期開園……11月中旬～4月上旬
- あさひかわ街あかりイルミネーション……11月下旬～3月上旬

- 旭川冬まつり……2月上旬
- 氷彫刻世界大会……2月上旬
- 雪あかりの動物園……2月上旬
- パーサーロペット・ジャパン……3月中旬



第8次旭川市総合計画

世界にきらめく いきいき旭川 ～笑顔と自然あふれる 北の拠点～

第8次旭川市総合計画では、「人口減少の抑制」と「魅力的な地域づくり」を効果的かつ集中的に推進するため、まちの未来を担う「こども」、まちの賑わいと活力を生む「しごと」、まちの温もりを支える「地域」に視点を当て3つの重点テーマを設定しています。

重点テーマⅠ

「こども生き生き
未来づくり」

新時代を生きる子どもたちが
明るく成長できる
まちづくり

重点テーマⅡ

「しごと生き活き
賑わいづくり」

多くの人が行き交い、
安心して働き続ける
まちづくり

重点テーマⅢ

「地域いきいき
温もりづくり」

地域の支え合いのもと
暮らしの安心を維持する
まちづくり

重要テーマⅠ

こども生き生き未来づくり

人口減少をできる限り抑制するため、これまで取り組んできた待機児童の解消や医療費助成などのほか、結婚、妊娠、出産、子育てなどへの支援を行います。

また、夢と希望を持って学ぶことができる環境づくりや一人一人の個性や能力を伸ばすことのできる質の高い教育を進めるとともに、旭川市立大学・同短期大学部の開学により、まちの未来を担う人づくりを推進します。

妊娠・出産・子育てに関する支援と 子育て環境の充実

保育環境の充実

待機児童ゼロを維持するため、保育士の確保や子育て支援員の育成に取り組みます。

地域における子育て支援

地域子育て支援センターにおいて、育児相談や親子遊びの広場の提供など、子どもの成長や子育てを支援します。

総合的な相談支援体制

子ども総合相談センターにおいて、子ども・子育てに関する様々な相談に専門スタッフが対応します。また、増加傾向にある児童虐待の防止対策の基本方針を策定し、相談体制の強化に取り組みます。

社会で自立して生きていく力を 培う教育の推進

学校におけるICT環境の活用

市内全ての市立小・中学校に高速ネットワーク環境と1人1台のタブレット端末を整備しており、ICT機器を効果的に活用した学習活動を進めていきます。

コミュニティ・スクールの推進

地域と一体となり子どもたちを育むため、小中連携・一貫教育をベースとしたコミュニティ・スクールの取組を推進します。

英語教育と国際理解教育の充実

小・中学校へ外国人英語指導助手(ALT)及び小学校3・4年生の外国語活動に外国語活動サポーターを派遣します。

部活動指導体制の充実

中学校に部活動指導員を配置し、教職員の負担軽減と教育環境の充実を図ります。

いじめ問題対策の推進

〔(仮称)いじめ防止条例〕の制定を進め、いじめの未然防止等の取組を推進します。

高等教育の充実

旭川市立大学・同短期大学部の開学により、進学・学習機会の充実及び社会で活躍できる人材の育成につながります。



しごとと生き生き賑わいづくり

まちの賑わいを創出するため、中心市街地の活性化に向けた取組を進めるほか、ものづくり、食と農、医療・福祉の集積、大規模自然災害が少ないといった様々な地域の資源や特性を生かし、地場産業の振興をはじめ、ブランド力の向上、新たな産業の創出や企業誘致の推進、スポーツの振興など地域経済の活性化を図ります。

また、労働力の確保に向けて、若者をはじめ、女性やシニア世代など多様な人材が活躍しやすい環境づくりを進めます。

さらに、本市をはじめとした北北海道の豊かな魅力を国内外へ発信しながら、その魅力を活用した新たな観光資源の発掘や移住・定住に向けた受入環境の充実を図るとともに、旭川空港をはじめ交通や都市機能の集積といった圏域における本市の拠点性を発揮しながら、多様な交流を促進し、多くの人々を惹き付け、賑わいのある生き生きとしたまちづくりを推進します。

地域産業の持続的発展

農業の持続的発展

安全でクリーンな農産物の販路拡大の支援のほか、新規就農者の育成支援、農業者の負担軽減や高収益化を図るための環境整備などの取組を進めています。

若者の地元定着やU/IJターンの推進

若者やU/IJターン希望者の地元就職を支援する企業情報サイトの運営や若年者等に対する職業能力向上の支援のほか、大学などの高等教育機関を卒業後に市内で就業した方を対象とした奨学金返済の一部補助制度や、テレワークの普及促進など、若者をはじめ、女性やシニア世代も活躍しやすい環境づくりを進めています。

魅力の活用、発信と競争力の強化

企業誘致の推進

充実した都市機能、豊富な人材、自然災害の少なさなどの好条件や企業進出をサポートする北海道内トップクラスの支援制度などにより多くの企業が進出しています。関係団体と連携しながら企業誘致を行うとともに、旭川空港や道央自動車道へのアクセスに便利な動物園通り産業団地への企業立地を推進します。

地場製品の販路拡大

旭川家具の販路拡大に向けた展示会出展、広報活動を支援するほか、中小企業の新製品開発・研究や販路開拓、デザインの振興を支援するなど、地場製品の国内外への販路拡大を推進します。



まちの賑わいの創出

中心市街地の活性化

中心市街地の活性化を図るため、来街を促す取組を支援するほか、空き店舗を活用した新規出店者への家賃補助や共通利用駐車場制度の運営支援などを実施します。

移住の促進

移住促進のPRや移住体験ツアー等を実施するとともに、東京圏から移住して就業した方を支援します。

まちの機能強化と国際化の推進

旭川空港の利用拡大

国内・国際航空路線の維持拡大を図るため、利用活性化に向けたPR活動や運航支援を行います。

JR北海道の路線維持

市民生活や地域振興に欠かすことのできない鉄道を維持・確保するため、関係機関等と連携しながら、JR路線の利用促進を図る取組を実施します。

スポーツ大会等の誘致の推進

スタルヒン球場

旭川が生んだ大投手ヴィクトル・スタルヒンの名を冠した野球場。夜間照明を備え、道内で唯一、プロ野球公式戦の屋外ナイターが開催されています。

旭川ハーフマラソン

旭橋やロータリー、常磐公園など、旭川の名所を走る日本陸上競技連盟公認コースで行われるハーフマラソンレース。

バーサーロペット・ジャパン

国内最大規模を誇るクロスカントリースキーと歩くスキーの国際大会。

地域いきいき温もりづくり

人と人とのつながりを強化するため、防犯や防災、子育て、福祉等において、世代を超えた地域の支え合いを支援するなど、他の重点施策をはじめ、各施策間の連携を図りながら、市民や地域主体の活動を活性化するための取組を進めます。

また、地域の多様な魅力を生かした個性豊かな地域づくりや様々な課題解決に向けた相談支援のほか、人や情報が集まる活動拠点の機能充実などにより、地域を愛する心の醸成やコミュニティの強化を図り、温もりに満ち、誰もがいきいきと暮らせる地域づくりを推進します。

地域主体のまちづくりの推進

住民活動の推進

町内会加入促進等、町内会活動の活性化を図るための補助事業を実施するなど、地域が主体的に取り組む活動を支援します。

地域まちづくり推進協議会

地域特性を生かした多様なまちづくりを推進するため、全市で展開する地域まちづくり推進協議会において、様々な団体が地域課題等を共有し、その解決に向けて地域が主体的に取り組む活動を支援します。

スマートフォンアプリによる地域情報受発信

町内会をはじめとする地域活動や市政情報を発信するスマートフォンアプリ「地域情報共有プラットフォーム」を導入し、地域内の情報共有の充実及び地域活動の活性化を推進します。





市議会

市議会は、市民を代表する34人の議員で構成され、市政の執行に必要な条例や予算などの重要事項を審議し決定する機関です。年4回(2・6・9・12月)の定例会のほか、必要に応じて臨時会が招集されます。また、行政に対する検査権や調査権、市民からの請願・陳情、「市民と議会の意見交換会」などを通じて、市民の意見が市政に反映されるよう努めています。



世界が認めた創造都市の

スグレモノ

環境、産業、農業… 日本屈指の「旭川自慢」をご紹介します

2019年



ユネスコ創造都市ネットワーク (デザイン分野)への加盟

旭川家具を中心とした、先進的なデザイン思想と活動が認められ、世界でわずか43都市しか認定されていないデザイン部門でのユネスコ創造都市ネットワークへ加盟が認定されました。

地震発生確率 全国1位の低さ

「全国地震動予測図2020年版」によると、30年以内の震度6弱以上の地震の発生確率は0.76%。

1902年



観測史上最低記録気温 -41.0℃を記録

2021年



順位	自治体	収穫量(t)
1	旭川市	36,200
2	深川市	31,700
3	岩見沢市	31,200
4	名寄市	23,700
5	新十津川町	20,600

水稻収穫量 全道一

日本で有数の米どころと知られる旭川。大雪山系からの豊かな伏流水と盆地特有の寒暖差により、おいしいお米が毎年つくられています。

旭川ゆかりのオリンピック選手・パラリンピック選手

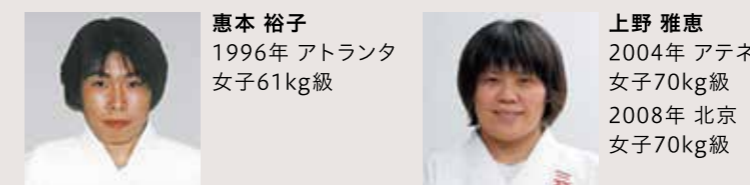
金メダリスト

[レスリング]



吉田 義勝 1964年 東京 フリースタイル フライ級
中田 茂男 1968年 メキシコ フリースタイル フライ級
加藤 喜代美 1972年 ミュンヘン フリースタイル 52kg級

[柔道]



恵本 裕子 1996年 アトランタ 女子61kg級
上野 雅恵 2004年 アテネ 女子70kg級
2008年 北京 女子70kg級

銀メダリスト

[陸上競技]

高平 慎士 2008年 北京 男子4x100mリレー

[バスケットボール]

町田 瑠唯 2021年 東京 女子

[スノーボード]

竹内 智香 2014年 ソチ 女子パラレル大回転

[カーリング]

石崎 琴美、鈴木 夕湖 2022年 北京 女子団体

[パラリンピック アイススレッジホッケー]

永瀬 充、三澤 英司、伊藤 仙孝 2010年 バンクーバー

銅メダリスト

[柔道]

上野 順恵 2012年 ロンドン 女子63kg級

山部 佳苗 2016年 リオデジャネイロ 女子78kg超級

[スキージャンプ]

高梨 沙羅 2018年 平昌 女子ノーマルヒル個人

[カーリング]

鈴木 夕湖 2018年 平昌 女子団体